

MJIIT 短期留学プログラム報告書

理工学部電気電子生命学科 4年

(プログラム参加時)

野本 悟史

1. 何故マレーシア留学なのか

正直に言うと、元々マレーシアに行きたいという意思があって、マレーシアに留学したわけではありませんでした。偶然と言ってもいいと思います。しかし、この2か月の留学を経て、マレーシアの魅力を存分に味わった今では、マレーシアへの留学をして本当によかったと感じています。マレーシアの魅力を語ると枚挙に暇がありませんが、厳選すると、以下の3点がマレーシア留学の魅力であると感じました。

まず1点目は、多くのマレーシアの人々が日本人に対して、非常に敬意を払っているという点です。特に、MJIITではそれが顕著でした。MJIITにいる学生たちは、将来日本で働くことや、日本に留学することを目標としている人ほとんどだったように思います。その為、周りの学生は、日本の留学生に対してとても好意的で、かつ興味を持って話しかけてくれます。人に話しかけるのが苦手な私にとっては、これは非常にありがたいことでした。よく彼らに自分が知らないような日本の良い点を指摘されていたので、日本を客観的に見ることができるようになったと感じています。

2点目は、非常に快適に生活することができるという点です。苦労は買ってでもしろとは言いますが、ただでさえ勉強、研究が大変なのに、生活までストレスフルだと留学の成果にも支障をきたすのではないのでしょうか。マレーシアでは、海外生活であるにもかかわらず、2か月の生活で不自由や不快感を覚えるようなことは全くありませんでした。(もちろん最低限の警戒や対策は必要です)また、マレーシアの食事は安くて非常においしいというのも快適さにとって重要な点です。マレーシア料理はもちろん、中国、インド、中東といった、各国の料理を食べることができるので、バリエーションが豊富で毎日食事に飽きることがありません。また、日本では決して食べることのできないような果物も安価で気軽に手に入れることができます。

最後は、マレーシアが多文化国家であるという点です。マレーシアでは、町へ出ても、大学に行っても、様々な国から来ている人に出会うことができます。例えば、クラスや研究室では、エジプト、インドネシア、バングラディッシュから来ている方がいました。また、マレーシア人の中でも、マレー系、中国系、インド系といった、違う母国語のバックグラウンドを持った人たちがいます。グローバルに働く人材を目指すにあたって、このような多様な文化の中で暮らし、それを理解することは、肝要な点であると思います。

以上のように、マレーシアは日本人留学生にとって非常に魅力的な国です。まだ行きたい国を検討中の方々も、マレーシアという素晴らしい留学先を検討してみるのはいかがでしょうか。

2. 英語学習

おそらく留学を志す人の多くの方が、「英語力」の向上を第1の目標としていると思います。もしそうだとしたら、マレーシアの工科大学への留学に対して感じる印象は、英語が母国語でない国に留学して、本当に英語力が身につくのかという点ではないのでしょうか。しかし、マレーシアに行けば、このような心配は全く必要ないことがすぐに分かります。マレーシアにいるほとんどの人は、英語を母国語マレー語と同等に、不自由なく話すことができます。これは、マレーシアが多文化国家であることに起因しています。その為、友人との会話や授業から、プレゼンテーションと、英語を話す機会に困ることはありません。まだ上手く話せないけど、実践を通じてもっと上達したいという人には、非常に適していると感じました。

3. MJIT の日々

私がこのプログラム中で、平日どのような生活を送っていたのか具体的に例示します。

8:00 起床、朝食(学食)

9:00 授業開始

13:00 昼食(学食)

14:00 授業

16:00 授業終了。研究室へ向かう。

20:30 研究室にて作業を切り上げる

21:00 夕食

22:00 今日の復習。英語の勉強。

24:00 就寝

MJIT の授業は、すべて英語で進行していきます。これは、工学だけでなく語学の勉強にもなり、大変ではありますが、実践的で非常にためになると思います。先生も教えた方が丁寧である為、ついていけなくて困り果てるということは基本的にはありませんでした。当然ですが、授業に遅刻欠席する人は全くおらず、皆一生懸命勉強しています。

学食は、バイキング形式で、マレー、インド、中東の料理が食べられます。品目にもよりますが、おなか一杯食べてもせいぜい5RM(約150円)程度しかかかりません。このように非常に食事代が安い為、マレーシア滞在中は、食事はほとんど外食でした。私の時は、生活費として2か月で約6万円分支給されましたが、普通に暮らしている学生にとっては、十分な金額だと思います。

休日は、郊外に観光に出かけたり、クアラルンプールの市街を散策したりしていました。時々、MJIT がチャーターするバスによるツアーなどが組まれる時があるので、それに参加することもありました。

4. 学んだこと

今回の MJIT 短期留学プログラムでは、2か月という短い期間でありながら、新鮮で充実した毎日を送ることができました。その中で、最も大きな収穫は、現地の様子をより具体的に知れたことであると考えています。

マレーシアは、現在急成長している国々の中の1つであるということは、日本でも多くの人知っているかもしれませんが、しかしながら、その経済成長にあたって、どのような課題や問題を抱えていて、またそれに対し現地の人々がどう考えているのかを正確に答えられる人がどれだけいるのでしょうか？こういった点を知っているかどうかは、今後、大きな市場となりうるマレーシアに日本がさらに進出していけるかどうかに関わっているはずです。

また、マレーシアがイスラム圏であることも、よい経験であったと感じています。現在、イスラム圏の国々の経済成長に伴い、製品とイスラム教の戒律の間で、どう折り合いをつけていくかといった話題にあがるが多くなってきました。イスラム教の人とほとんど出会うことのできない日本においては、イスラム教の規則は知ることができても、ムスリムの人たちの本音を知ることは絶対にできないと思います。

マレーシアに限らない話かもしれませんが、海外で活躍するために本当に必要な現地の情報は、そこで暮らし、学ばないとわからないことが多いです。その片鱗だけでも、この留学で学ぶことができたのは、この後の大学院生活へ向けて非常に良い経験となりました。

5. 謝辞

最後になりましたが、本プログラムの奨学金を出資していただいたローム・ワコー株式会社名誉会長、吉岡洋介様に厚く御礼申し上げます。このような充実した奨学金制度がなければ、私の留学は決して実現することはできませんでした。本当にありがとうございました。



↑クラスの人とスチームボート（マレー風鍋）を食べに行った時の写真。
車をもっている友人が、よく色々なところに食べに連れて行ってくれました。



↑ナジブ首相との対談。
15分という短い間でしたが、新聞やテレビにも取り上げていただいたようです。貴重な体験でした。



↑研究室の近くから見えるお気に入りの景色。
マレーシアの中心地 **KLCC** がすぐ近くに見えます。
また、写真左下にある建物はモスクです。大学構内にあります。時間になると、1日5回お祈りの時間を知らせるコーランの放送が街中に響きわたります。



↑クラスの人で行ったアイススケート場。
冬がないマレーシアでは、なかなかウィンタースポーツは経験できないようです。

←研究室の人との Farewell Party。
PhDの方も多く、刺激的な環境でした。